

2022 年度愛知県血液検査研究班基礎講座（現地開催）

アンケート集計結果

作成日：2022 年 10 月 2 日

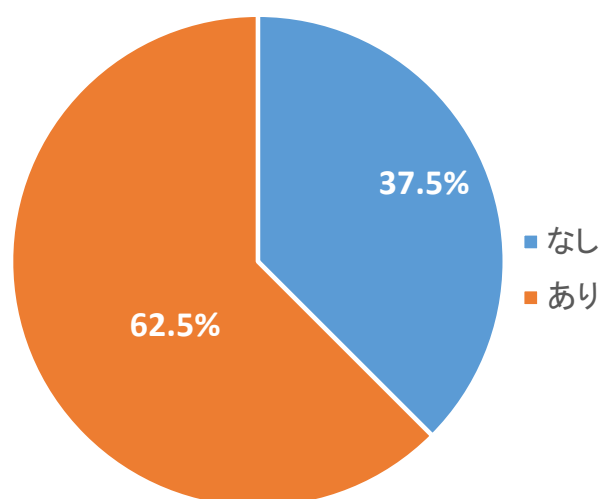
テーマ：血液像の見方

開催日：令和 4 年 8 月 7 日（日）

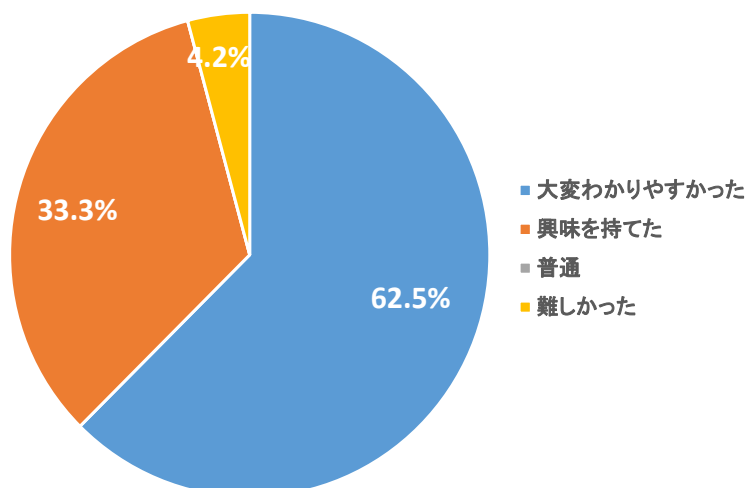
参加者数：24 名

【参加者の概要】

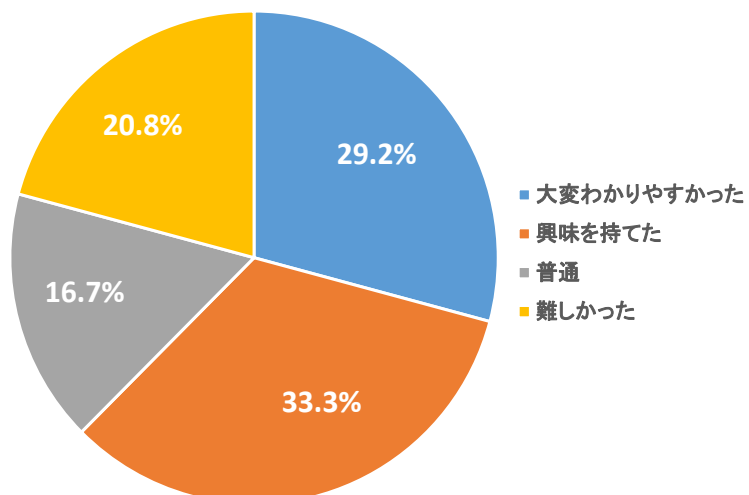
① 血液像判読経験の有無



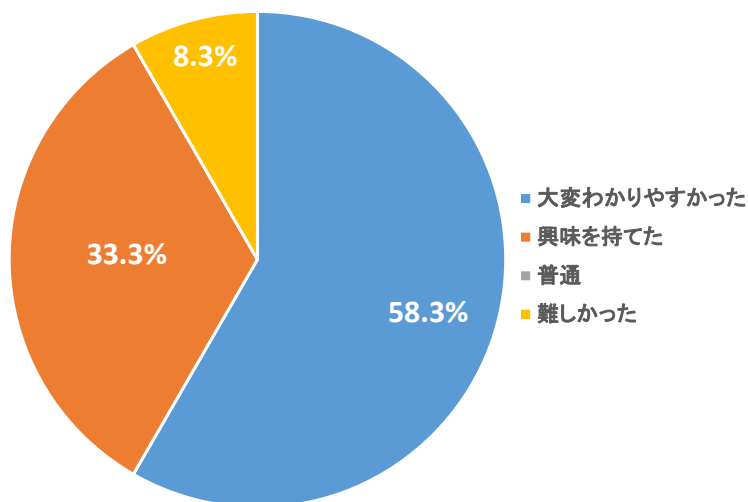
② 午前：講演 1 の感想



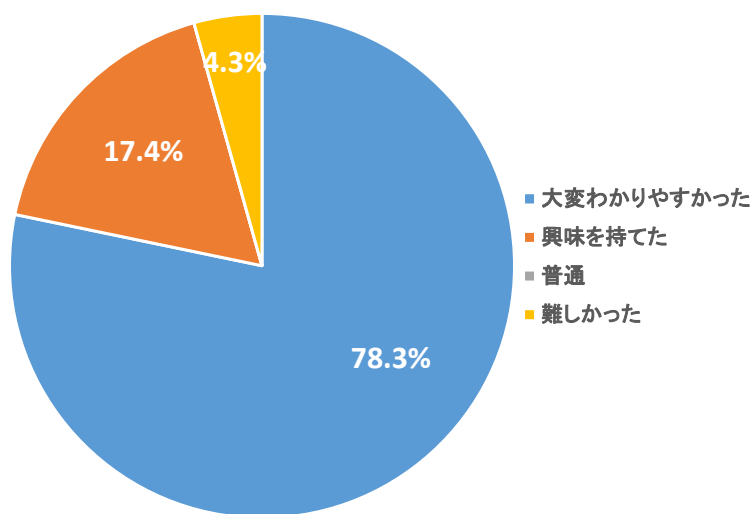
③ 午前：講演 2 の感想



④ 午後：実習の感想



⑤ 午後：症例解説の感想



【コメント】

- ・初心者には難しい。解説を聞いてから標本を見たかった
- ・本講座内容に加えて、ルーチン業務のアドバイス等を伺うことができ、問題解決をすることができた
- ・少人数でのため、スタッフに質問をしやすい環境でよかった
- ・ちょうど血液像を読み始めて分かり始めたころだったので大変勉強になりました。午後実習も質問しやすくて良かったです。それぞれのスライドを見るポイントを少し始めに教えて頂けるともっと良かったです。
- ・今回くらいの人数であれば班員の方々にたくさん質問できたので良かったです。
- ・マルクについての講義もあれば受講したいと思いました。
- ・実際に顕微鏡で症例を見た後に解説を行っていただいたのが大変わかりやすかったです。
- ・鏡検のときにすぐに聞けたのがとても良かったです。

2022 年度愛知県血液検査研究班基礎講座（オンデマンド）

アンケート集計結果

作成日：2022 年 10 月 2 日

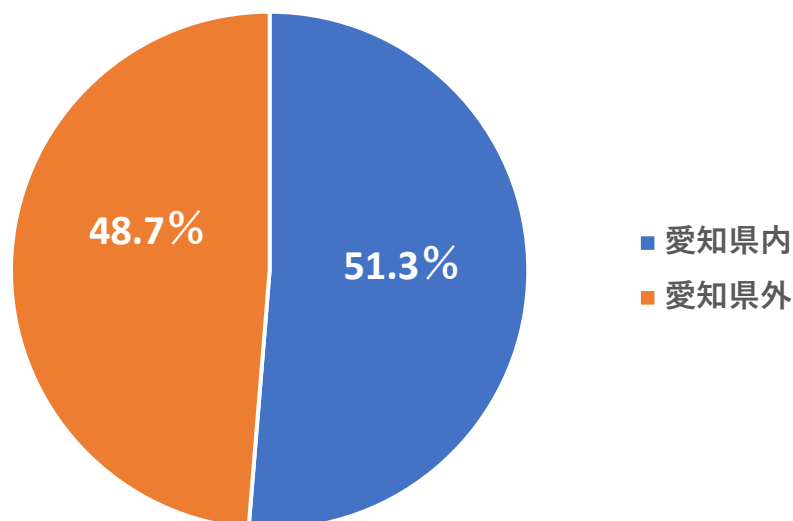
テーマ：血球形態標準化について～骨髄顆粒球系・赤芽球系細胞を中心に～

オンデマンド配信期間：令和 4 年 7 月 30 日～8 月 13 日（土）

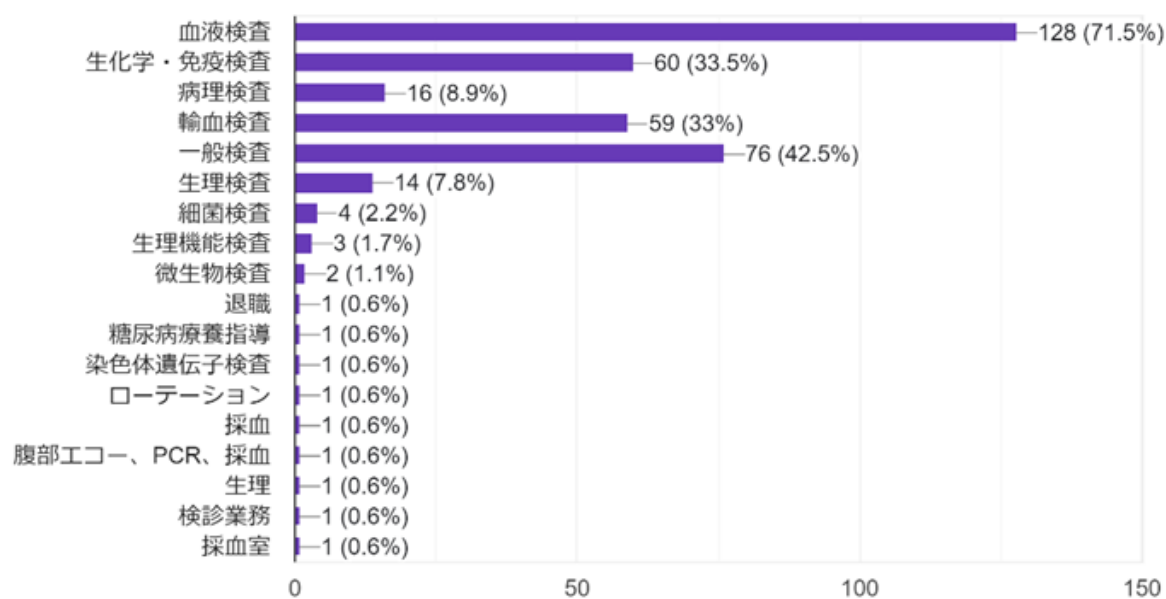
申し込み総数：292 名 アンケート回収：179 名

【参加者の概要】

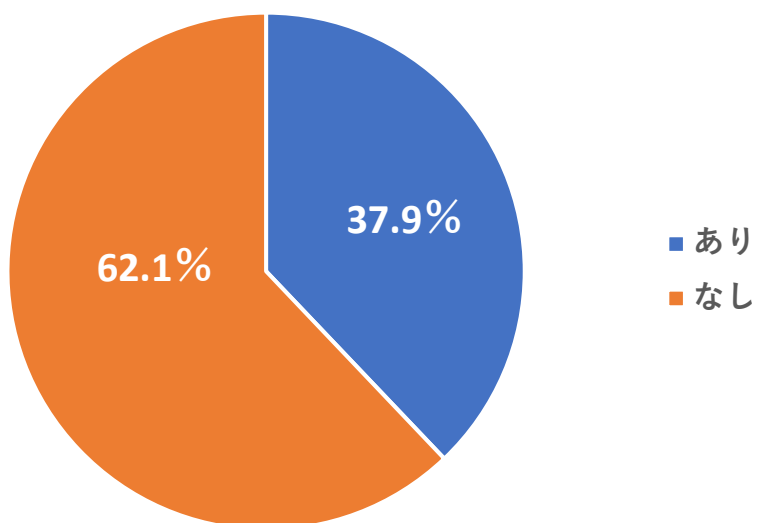
③ 所属技師会について



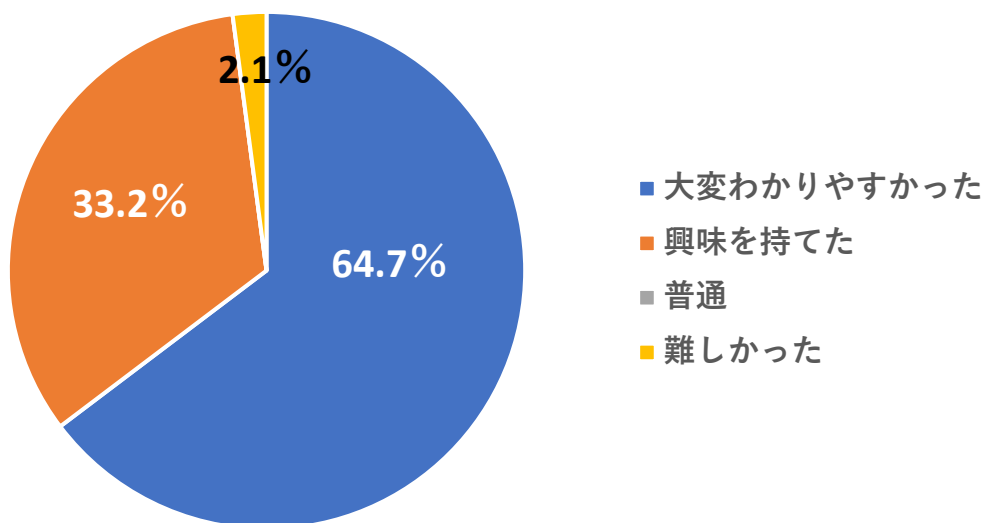
④ 日常検査で担当している部署について



⑤ 骨髄像鏡検のご経験はありますか？（任意）



【講演について】
講演内容についていかがでしたか？



【6月研究会に関するご意見、ご感想】

- ・ 特にありません。今回、形態学的特徴を伝える際の表現など日常業務で使える知識を得ることができたと感じるので、今後も日常でも生かせる専門知識をご講演いただけると嬉しいです。
- ・ ルーチンでは、末梢血しか鏡検していませんが、ごくたまに幼弱細胞が出た時に鑑別が難しく悩んでおりましたが、今回の勉強会でとても勉強になりました。日常で遭遇する症例など紹介してくれるとありがたいです。
- ・ これからの予定で話されてた内容の公演や発表を楽しみにしています。
- ・

【今後、研究会、講演会等で取り組んで欲しい内容がありましたら、ご記入下さい】

- ・ 症例紹介、症例検討会、珍しい症例のご紹介
- ・ 鏡検時のピットフォールについて
- ・ 形態を中心に行っていただけたら幸いです。
- ・ 大変丁寧でわかりやすいご講演をありがとうございました。講演でお話しがありましたように破碎赤血球等の形態、標準化についてぜひご教示いただきたいです。
- ・ 破碎赤血球について
- ・ リンパ球系の鏡検の仕方（正常と腫瘍細胞の鑑別）について。破碎赤血球について。
- ・ 血液像の基礎
- ・ 反応性リンパ球と異常リンパ球の鑑別
- ・ リンパ球の分類(分化)
- ・ 反応性リンパ球の症例
- ・ 異常リンパ球の特徴・見つけ方 vs. 正常・反応性
- ・ 異型リンパ球の分類。16 μ 以上で細胞質が好塩基性に乏しい場合にどうするかなど。
- ・ 凝固検査について、リンパ球と単球、異型リンパ球と異常リンパ球など形態学的な違いを知りたいです。
- ・ 単球形態のバリエーション画像について
- ・ 血液像の分類等基本的な勉強会を定期的にやっていただけると標準化にもつながると感じております。
- ・ 骨髓標本の特殊染色の手技、評価の仕方など(骨髓検査をほぼ外注に頼っており、特殊染色の知識が身につかないため)
- ・ 悪性リンパ腫などの血液疾患について
- ・ MDS について
- ・ 細胞表面マーカー
- ・ 経験からわかる異常、血液疾患を疑うポイント
- ・ 骨髓、リンパ腫（異常リンパ球）、血液認定試験対策
- ・ 認定試験の対策をしていただきたいです。
- ・ 病態を推定するための考え方
- ・ 凝固波形解析

【頂いたご質問についての回答】

- ・ 末梢血液像の各コメント入力基準を詳しく知りたいです。（顆粒減少はどれぐらいある時にコメントとして入力するかなど）

→好中球顆粒減少については、無顆粒または80%以上の顆粒の減少の際にコメント付記するのが望ましいと思います。出現頻度については、骨髓像では10%以上認める場合に有意な所見として報告するように統一されていますが、残念ながら血液像について明記されている文献等はないかと思います。班員の施設の中には骨髓像と同じく血液像でも10%以上認めた場合にコメントを付記する運用としているところもあります。

※参考：MDSの形態学的異形成に基づく診断確度区分と形態診断アトラス（朝長万左男）

また、赤血球形態のコメントの付記については日本検査血液学会標準化委員会 赤血球形態分類基準、赤血球形態表現用語、赤血球形態表現方法（以下アドレス）をご参照ください。

<http://jslh2.kenkyuukai.jp/special/?id=20870>

- ・ 染色(メイギムザ) 試薬によると思うのですが、添付文書の手順で染色しても顆粒や核の染まり具合が悪い時どうしたらいいか、染色のポイントが有れば知りたいです。

→①細胞数が多い場合は染まりが薄くなる場合があるため、染色時間を長くするのは有効です。載せガラス法で染色する場合は、水洗時に染色カスを残さないように丁寧に行うときれいな標本に仕上がります。

②染色性は緩衝液のpHにも左右されます（アルカリ側では青みがかかる）のでご注意ください。

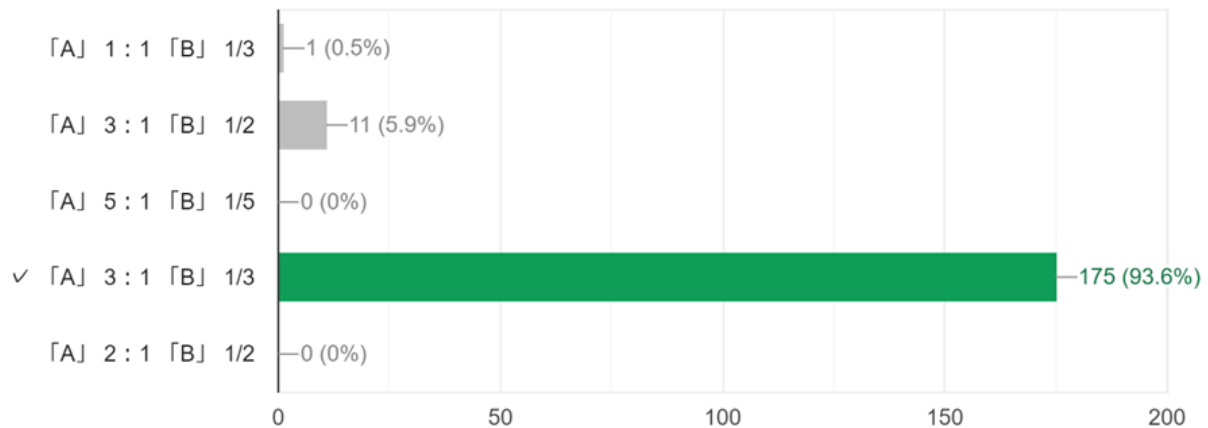
③水洗後の風乾時に標本上で水溜りができ、乾燥に時間がかかる部分があると染色ムラの原因になりますので、風乾前にはガラスの端にキムタオルをあてて水分をしみこませるなどすると均一な仕上がりになると思います。

④ギムザ染色液を調整後は時間経過により染色不良を起こす可能性があるため、用事調整が望ましいです。毎回の調整が難しい場合は、使用頻度にもよりますが最低でも午前と午後でそれぞれ調整し直すことをお勧めします。

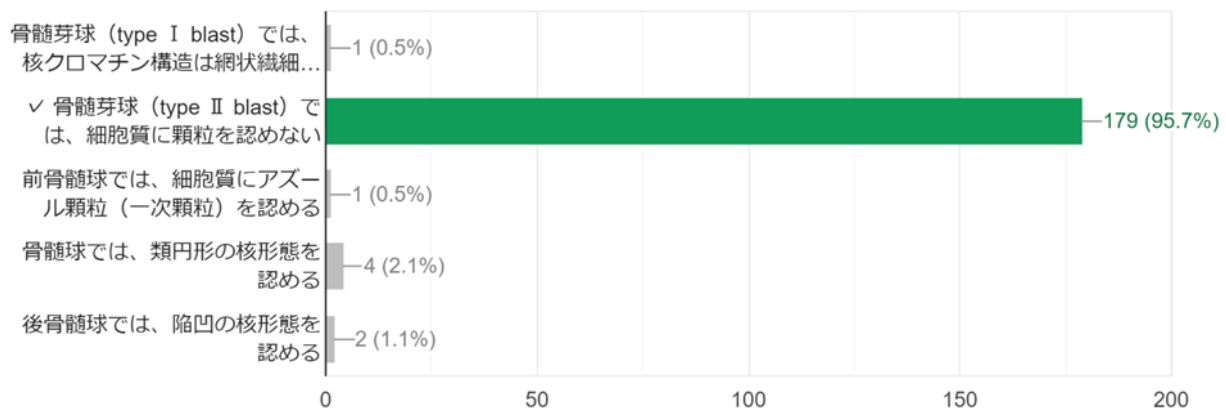
【設問の回答】

設問 1：好中球桿状核球の特徴について、正しい組み合わせ「A」「B」を一つ選びなさい。

●核の長径と短径の比率が「A」以上、かつ核の最小幅部分が最大幅部分の「B」を超える長い曲がった核を持つ



設問 2：骨髓幼若顆粒球の分類基準の改訂(2019)において、誤りを一つ選びなさい



設問 3：骨髓幼若赤芽球の分類基準の改訂(2019)において、誤りを一つ選びなさい

